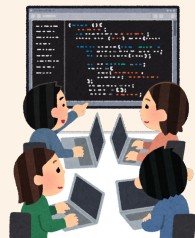


2025年度 SSH特設科目「SSII」

【第14回】 各自の研究活動

2025年10月14日（火）



専門的課題研究のイメージ

STEP1

研究テーマを決める

STEP2

リサーチクエスチョンを導く

STEP3

仮説を立てる

STEP4

適切な研究方法を選ぶ

中間目標

研究計画書を作成する

STEP5

調査・実験を実施する

STEP6

結果をまとめて考察し、結論を導く

STEP7

研究内容をまとめ、発表する

より高次のRQへ

高1
中間発表

探究
Day

生徒探究
発表会

step1

振り返り

step7

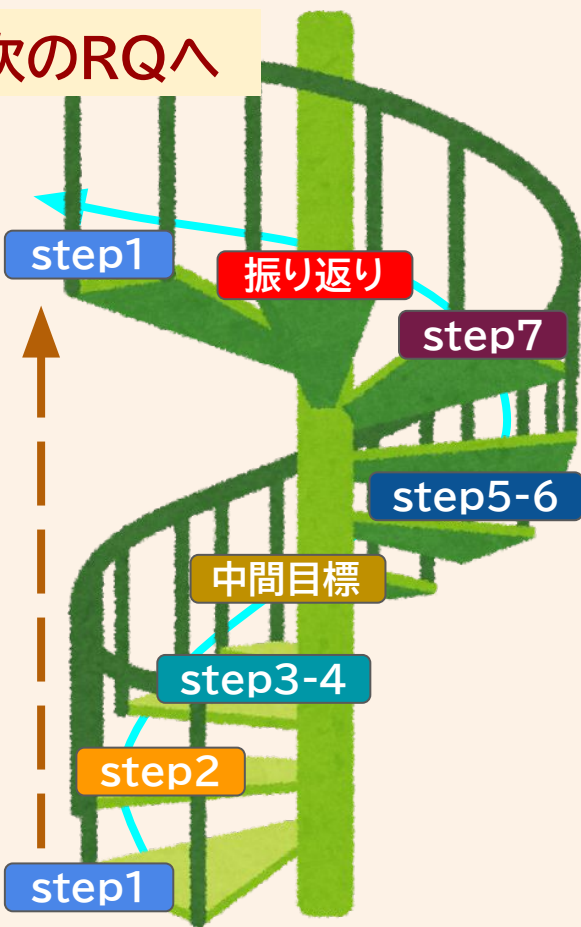
step5-6

中間目標

step3-4

step2

step1



「SS II」の評価

※発表の評価対象には発表資料(ポスター、スライド、研究要綱など)も含まれます。

知識・技能	専門的課題研究計画書兼報告書 探究DAY専門的課題研究中間発表(11月) 専門的課題研究成果発表(2月)
思考力・判断力・表現力	専門的課題研究計画書兼報告書 探究DAY専門的課題研究中間発表(11月) 専門的課題研究成果発表(2月)
主体的に学習する態度	探究ノート(通年) 探究DAY専門的課題研究中間発表(11月) 専門的課題研究成果発表(2月) 学年末の振り返り

11月8日(土) 探究Day

ポスター(A3×8枚)発表
発表6分、質疑6分

高校2年生は全チーム発表
実験・調査結果、考察まとめ、
今後の展望も発表

他校から
も発表者
が来ます！

探究Day 芝浦工業大学柏
中学高等学校



ともに学び、
ともに深める。
だから、
探究はおもしろい。

2025年11月8日(土)
小・中学生の部 9:30~12:00 高校生の部 13:30~15:50

内容
ポスターセッション形式による探究成果発表会
(探究の途中経過を発表することもあります)

発表対象者 小中学生・中学生・高校生
観覧対象者 小学生・中学生・高校生
教育関係者・保護者

お問い合わせ
芝浦工業大学柏中学高等学校
〒277-0035 千葉県柏市勝院 700
TEL:047(714)3700
e-mail:conference@shibaura-it.ac.jp
探究科主任 舘野真由

当日の詳細
発表申込はこちら
申込期限10/11(土)



当日の詳細
観覧申込はこちら
申込期限11/1(土)



4限まで通常の土曜時程

13:30	～	13:50	開会式
13:55	～	14:55	ポスターセッション発表 (発表6分、質疑6分)
15:00	～	15:15	閉会式
15:20	～	15:50	交流会
15:50	～	16:20	片付け
16:30	～	16:40	帰りのHR後、下校

探究Day(11/8)までのSSIIの時間

探究DayまでのSSⅡ あと3回(6時間)

後期 10/14 10/21 10/28

研究活動と発表資料の準備・練習を計画的に進めていこう！

10/14	発表資料作成
10/21	発表資料推敲 → 完成
10/28	完成した資料を使って発表練習(リハーサル)

探究Day 発表形式

課題研究メソッド
p.132、142-144 ①

研究計画書兼報告書
(1) 研究テーマ

どのような研究を行ったか、内容がわかり、かつ興味を引くタイトルをつけよう。
言葉を付けて満足しても良い。

タイトル

生成AIを用いた短文記述採点方法の開発と運用

チーム番号: 777

全員の
組番号 + 氏名

チーム番号
メンバー

この3つを必ず入れる

課題研究メソッド
p.142-144 ②

研究計画書兼報告書
(3)①: リサーチクエスト

研究の目的

- 研究に取り組んだリサーチクエストの内容とそれが生じた背景を示し、研究の目的を示す。
- リサーチクエストに対して、自分が立てた仮説とその根拠を示す。
- プレゼンテーションの導入部分として、「この研究は必要だ」、「面白そうだ」というように興味をもってもらえるようにまとめる。

課題研究メソッド
p.142-144 ③

研究計画書兼報告書
(2) 研究背景

研究背景

- 初めて発表を聞く人に内容を理解してもらうために、背景となる現状や先行研究・事例を説明する。
- 発表で用いる言葉の意味や定義、現状を表すデータ、先行研究・事例を紹介する(データを引用した場合、引用元を示す)。
- これまでどのような取り組みや研究が行われ、何が分かっているのか、何がすでに解決されているのかなどを説明する。

課題研究メソッド
p.62、142-144 ⑤

研究計画書兼報告書
(3)②: リサーチクエストの意義

研究の意義

- 先行研究・事例をふまえ、自分が課題研究を行う前の状況を示す。
パターン1: 社会的貢献) 現在の課題に関する社会課題、未だ取り組まれていないこと、現状を放置することで起こりうる状況
パターン2: 学術的貢献) 先行研究から現在わかっていること、わかっていないこと
- 自分の課題研究が、上記の課題にどのような影響を与えるかを示す。

課題研究メソッド
p.142-144 ⑥

研究計画書兼報告書
(3)③: 仮説
(4) 研究方法

研究方法

- どのような研究方法を用いてリサーチクエストの解決に挑むのか、具体的に詳しく述べる。
具体的でない例: 「インターネットで調べる」、「アンケートを行う」
→ 条件、手順、対象、参照文献、データなど 研究方法に合わせよう

課題研究メソッド
p.142-144 ⑦

研究計画書兼報告書
(5) 研究結果
(6) 考察・結論

結果・考察

- 調査・実験で得られた結果を、図や表などを可能なかぎり用いて、視覚的に内容がわかるようにまとめる。
- 注目してほしいポイントを色線で囲むなど、聴衆が理解しやすいように工夫するとよい。

ポスター(A3×8枚)発表

1枚目	表紙
2枚目	研究背景(先行研究・事例を用いた現状分析)
3枚目	研究の目的(リサーチクエスト)
4枚目	研究の意義(社会や学術への貢献)
5枚目	研究方法(調査・実験方法)
6枚目	結果・考察
7枚目	結論・展望(まとめと今後の展望)
8枚目	引用文献・参考文献

10枚に収まる範囲で
結果・考察および結論・展望の
スライドの枚数を増やすことも可
(★がついている項目は2枚まで増やしてよい)

探究Dayに向けて 意識すること3選

一. 探究のサイクルを回そう

適切な方法で調査・実験を行い、【調査→考察→新たな問い】のサイクルを回しましょう。

これを繰り返すことで、リサーチクエスションに迫ることができます。

一. 計画立てや役割分担をして無駄なく研究を進めよう

期限を意識してやることを整理しましょう。

チーム探究では役割を分担し、作業の重複を避けて進めてください。

一. 反証可能性を考えよう

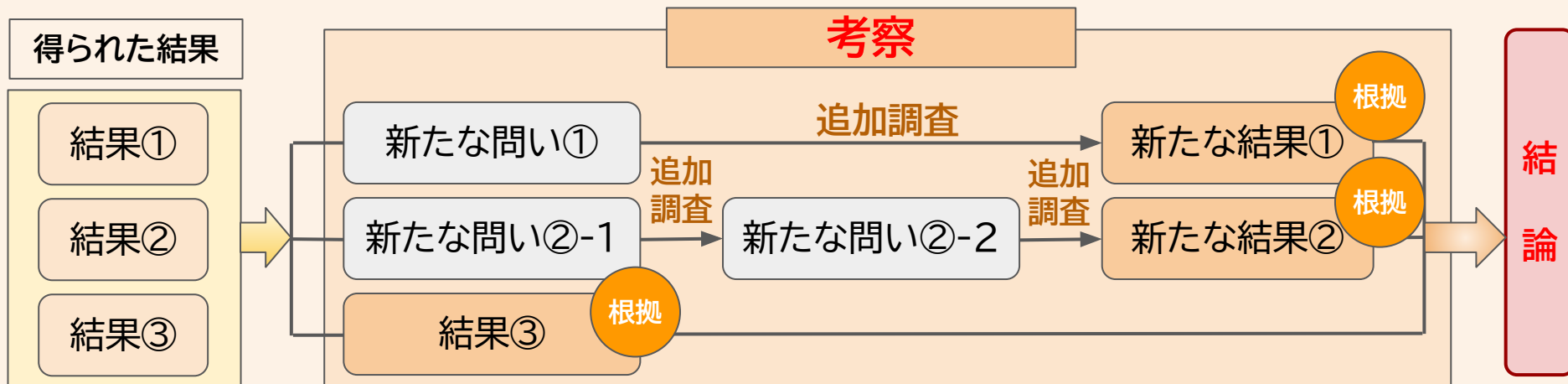
発見があっても「本当に仮説を証明できるか」と問い続けましょう。

結論で満足せず今後の展望まで深めれば、人生に影響を与える探究になります。

考察の進め方（課題研究メソッド 第4章）

前提として、リサーチクエスチョンに対して、仮説を立て、
仮説を検証するための研究方法を選択して、結果が得られている。

→ **考察**とは、得られた結果を分析し、**結果に含まれる事実や
次の研究につながる問い、リサーチクエスチョンの答えとなる
結論を導く最重要ステップ**である。



研究方法のまとめ（課題研究メソッド 第4章）

以下の点をクリアできているか、担当の先生と確認しましょう。

- ❑ 調査・実験結果からそれぞれの意味を見いだせているか？
- ❑ 結果に対して、新たな問いを立てているか？
- ❑ 結果に対して立てた問いの答えを見いだし、考察ができているか？
- ❑ どこまでが客観的なデータをもとにした事実で、どこまでが予想であるのかがはっきりしているか？
- ❑ 結果・考察から論理的に結論（リサーチクエスションの答え）を導いているか？
- ❑ 結果・考察から今後の展望について考えているか？

今後の展望のまとめ方（課題研究メソッド 第4章）

探究Dayまでにまとめよう

- この課題研究で明らかになったことは何か？
- 取り組んだ課題研究で生まれた新たな「問い」や解決できなかったことは何か？
 - 研究の中で新たに発生した疑問や解決できなかった点について書いておこう。
 - 2月の生徒探究発表会に向けて調査・実験の見通しを発表できるようにしよう。

生徒探究発表会や外部コンテストに向けて考えよう

- 社会・学術分野にどのような変化(貢献)が見込めるか？
 - 課題研究の意義と得られた結果を結びつけ、研究成果がどのように社会や学術へ貢献するのかを書いてみよう。